【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成18年8月17日(2006.8.17)

【公表番号】特表2003-526735(P2003-526735A)
【公表日】平成15年9月9日(2003.9.9)
【出願番号】特願2001-554486(P2001-554486)
【国際特許分類】
Ｃ２１Ｃ　5/36　(2006.01)
Ｃ０４Ｂ　5/06　(2006.01)
Ｃ２１Ｂ　5/04　(2006.01)
Ｃ２１Ｃ　5/28　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ２１Ｃ　5/36
Ｃ０４Ｂ　5/06
Ｃ２１Ｂ　5/04
Ｃ２１Ｃ　5/28　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成18年6月28日(2006.6.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　酸性修正物質の添加によって、還元の前に、液体スラグの塩基性値を、目標スラグの塩基性値（ＣａＯ／ＳｉＯ$_2$）よりも０．１～０．５小さい値に調節することを特徴とする、塩基性酸化物スラグ中に含有されている金属酸化物を金属浴を使用して還元する、塩基性酸化物スラグからセメント産業用のポゾラン又は水硬性の粉砕材料を製造する方法。
【請求項２】　前記塩基性酸化物スラグが鋼鉄スラグである、請求項２に記載の方法。
【請求項３】　前記酸性修正物質が、石英砂、及び／又は溶鉱炉スラグ、及び／又はＳｉＯ$_2$含有修正物質である、請求項１又は２に記載の方法。
【請求項４】　還元段階の最後又は最後近くで塩基性値を調節して、１．１～１．５の所望の目標塩基性値にすることを特徴とする、請求項１～３のいずれかに記載の方法。
【請求項５】　Ａｌ$_2$Ｏ$_3$含有修正物質を、少なくとも部分的に、スラグの還元の前に導入することを特徴とする、請求項１～４のいずれかに記載の方法。
【請求項６】　前記Ａｌ$_2$Ｏ$_3$含有修正物質がボーキサイトである、請求項１～５のいずれかに記載の方法。
【請求項７】　焼石灰及び／又はＣａＯ含有修正物質の添加によって、目標塩基性値を調節することを特徴とする、請求項１～６のいずれかに記載の方法。
【請求項８】　スラグの金属酸化物含有率が３．５ｗｔ％未満になったときから、目標塩基性値に近づけるようにすることを特徴とする、請求項１～７のいずれかに記載の方法。
【請求項９】　前記金属酸化物含有率が、酸化鉄、酸化マンガン、酸化クロム及び酸化バナジウムの含有率の合計である、請求項１～８のいずれかに記載の方法。
【請求項１０】　１２～１５ｗｔ％のＡｌ$_2$Ｏ$_3$含有率を得ることを目的としたＡｌ$_2$Ｏ$_3$の添加のときの塩基性値が、Ａｌ$_2$Ｏ$_3$含有率が比較的低いときの塩基性値よりも

わずかに小さいことを特徴とする、請求項５又は６に記載の方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
本発明の実施態様としては下記の実施態様を挙げることができる：
（実施態様１） 酸性修正物質、例えば石英砂及び／又は溶鉱炉スラグ及び／又はSiO_2含有修正物質の添加によって、還元の前に、液体スラグの塩基性値を、目標スラグの塩基性値（CaO/SiO_2）よりも０．１～０．５小さい値に調節することを特徴とする、塩基性酸化物スラグ、特に鋼鉄スラグ中に含有される金属酸化物を金属浴を使用して還元する、塩基性酸化物スラグからセメント産業用のポゾラン又は水硬性の粉砕材料を製造する方法。
（実施態様２） 還元段階の最後又は最後近くで塩基性値を調節して、１．１～１．５の所望の目標塩基性値にすることを特徴とする、実施態様１に記載の方法。
（実施態様３） Al_2O_3含有修正物質、例えばボーキサイトを、少なくとも部分的に、スラグの還元の前に導入することを特徴とする、実施態様１又は２に記載の方法。
（実施態様４） 焼石灰及び／又はＣａＯ含有修正物質の添加によって、目標塩基性値を調節することを特徴とする、実施態様１、２又は３に記載の方法。
（実施態様５） スラグの金属酸化物含有率、特に酸化鉄、酸化マンガン、酸化クロム及び酸化バナジウムの含有率の合計が３．５ｗｔ％未満になったときから、目標塩基性値に近づけるようにすることを特徴とする、実施態様１～４のいずれかに記載の方法。
（実施態様６） １２～１５ｗｔ％のAl_2O_3含有率を得ることを目的としたAl_2O_3の添加のときの塩基性値が、Al_2O_3含有率が比較的低いときの塩基性値よりもわずかに小さいことを特徴とする、実施態様３に記載の方法。
以下では、例示の態様によって本発明をより詳細に説明する。